

[認知症対応型共同生活介護用]

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成 21 年 3 月 5 日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3610126124
法人名	医療法人 松岡会
事業所名	山城第一グループホーム
所在地	徳島県徳島市山城西1丁目182-3 (電話) 088-625-1311

評価機関名	徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地
訪問調査日	平成 21 年 3 月 3 日

【情報提供票より】(平成 21 年 1 月 18 日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 13 年 10 月 5 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	6 人
職員数	8 人	常勤:3人、非常勤:5人、常勤換算:6人	

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋造り		
	3 階建ての	階 ~	3 階 部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費:500円、理美容代:500円/1回、その他:実費	
敷 金	有( 円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有の場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	260 円	昼食	520 円
	夕食	520 円	おやつ	0 円
	または1日当たり		1,300 円	

### (4) 利用者の概要 (平成 21 年 1 月 18 日現在)

利用者人数	6 名	男性	2 名	女性	4 名
要介護1	0 名	要介護2	1 名		
要介護3	2 名	要介護4	3 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 92 歳	最低 86 歳	最高	97 歳	

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 松岡会 山城クリニック
---------	------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

母体クリニックの3階を改築して作られた事業所は、利用者の動きが良くわかる構造となっている。周辺には大学やスーパー、小売店などが並び、買い物や散歩をするのに便利である。経営者や管理者、職員は事業所を地域の社会資源として自覚してサービスの質の向上に努め、重度化した場合や終末期のあり方についても積極的に取り組んでいる。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での主な課題である「市町村との連携」、「同業者との交流を通じた向上」については、改善されている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価はミーティングを開催して職員間で話し合い、作成している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2か月に1回開催し、利用者や家族、民生委員、地域包括支援センター職員、事業所関係者が参加している。会議ではグループホームの現状報告、行事や災害訓練、自己評価・外部評価についての意見交換などを行っている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の要望は意見箱を設置したり、面会時や年に2回の家族会の際に直接聞いたりして把握している。出された意見にはすぐに対応している。また外部の機関にも申し出ることができる旨を「重要事項説明書」に明記している。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の秋祭りの神輿が立ち寄ってくれたり、近くの大学の学生ボランティアの来訪や事業所の納涼祭への近隣住民の参加などがある。また散歩や買い物などで地域へ出かけて交流するなどしている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	全職員で話し合い、地域密着型サービスとしての事業所独自の理念をつくらせている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念はスタッフルームに掲示して毎日の申し送り時に唱和し、意義を職員間で相互に確認し合いながら日々のケアに活かしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の秋祭りの神輿が立ち寄ってくれたり、近くの大学の学生ボランティアの来訪や事業所の納涼祭への近隣住民の参加などがある。また散歩や買い物などで地域へ出かけて交流するなどしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価はミーティングを開催して職員間で話し合い、作成している。外部評価の課題についても職員間で何度も話し合い、改善に繋げている。また運営推進会議で自己評価、外部評価の結果を報告して参加者に意見をもらい、課題を改善してサービスの質の向上に繋げている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月に1回開催し、利用者や家族、民生委員、地域包括支援センター職員、事業所関係者が参加している。会議ではグループホームの現状報告、行事や災害訓練、自己評価・外部評価についての意見交換などを行っている。しかし、議事録への職員の確認印・サインがない。	○	会議内容を全職員が共有できていることが分かるよう職員の確認印・サインを残すことが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	毎月の報告書を窓口に直接持参し、担当者との関係づくりを心がけている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の健康状態の変化は、電話ですぐに連絡している。またホーム便りで日常の生活の様子を伝え、預かり金の明細も送付している。しかし、出納帳への確認印・サインがない。	○	金銭出納帳は、家族の確認印・サインをもらうことが望まれる。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の要望は意見箱を設置したり、面会時や年に2回の家族会の際に直接聞いたりして把握している。出された意見にはすぐに対応している。また外部の機関にも申し出る事ができる旨を「重要事項説明書」に明記している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は最小限にとどめている。やむを得ない場合には利用者に説明したり、異動した職員に顔を出してもらうなどして利用者の混乱を防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修には職員の希望を聞いて参加できるように配慮している。法人内外の研修に参加し、その内容をミーティング等で伝え、学習した知識を全職員で共有している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会徳島県支部に加入し、グループ分けした事業所合同で相互評価をし、同業者を訪問して現場を知り、意見交換をしてケアの向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気などに徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学や体験利用を取り入れ、事前に利用者や家族にサービス内容や、事業所の雰囲気などを十分に知ってもらい、納得して利用してもらえるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者とファッションや美容について話し合ったり、生活のいろいろな知恵を教えてもらうなど共に過ごし支えあう関係を築いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者や家族の意見を時間をかけて確認し、意向にそうよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアカンファレンスを開いて、利用者や家族、医師、職員の意見を総合して介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的に介護計画を見直している。利用者の心身の変化があるときの見直しでは、家族の意見も聞いたうえで、その時の利用者の状態に沿う介護計画に修正している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を整備し、利用者の心身の状態を医師や看護師、職員が常に把握して緊急時にも対応できるよう配慮している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者が希望するかかりつけ医の定期的な受診ができるよう通院支援を行っている。また、母体クリニックの医師が毎日様子観察を行うなど、適切な医療が受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時に利用者や家族の意思を確認し、医師を交えて看取りの指針を作成し、全員で方針を共有している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーについて守るべきことを明記した「契約書」に基づき、利用者の個人記録はスタッフルームに保管されている。職員の言葉かけは利用者が年長者であることを念頭に置き、丁寧に行われている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ゆっくりと食事をしたい利用者には時間をかけて自分で食べてもらえるよう見守りを行うなど、やりたいことやできることを大切に支援を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員が利用者の目の前で盛り付けを行ったり、共に食器拭きを行うなどしている。また、自分で食べたい気持ちを大切に、時間をかけて食事をするを優しく見守る配慮をしている。食事は共に会話を楽しみながら食べている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は利用者の希望により毎日入れるよう支援している。入浴が嫌いな方には言葉かけを工夫して入ってもらい、清潔を保てるよう配慮している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物や新聞をたたむなどの役割、習字や生け花、フラワーアレンジメントなどの楽しみ事を支援している。利用者が作った作品は居室や共有空間に飾り、達成感を得られるよう工夫している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩やスーパーでの買い物に出かけたり、近隣の大学の学園祭に参加するなど利用者の希望を優先した外出を支援している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関に鍵をかけていない。利用者の外出したい思いや行動を察知して、その気持ちに寄りそうように配慮している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導により避難訓練を年2回実施し、夜間を想定した訓練も実施している。また町内の避難訓練にも参加し、協力体制を築いている。その計画や実施の記録もあり、避難誘導図、緊急連絡網も作成し、緊急時に備えて水を備蓄し、ヘルメットも人数分用意している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分、食事の摂取量を把握し、記録している。栄養士の立てた献立をその人が食べやすいようにきざみ食にする等の工夫をしている。食事量の少ない人には、医師の指示により栄養補助食品を摂取してもらうようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は利用者の様子がよくわかる構造になっており、掃除も行き届いて清潔である。壁には利用者と一緒に作ったひな人形の貼り絵があり、食卓には桃の花や菜の花を飾り、季節感を感じる事ができる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者が作成した趣味の小物や自宅から持ち込んだ思い出の写真やクッションを配置し、一人ひとりが居心地よく過ごせるよう工夫している。		